



弘前学院聖愛中学高等学校

OSP事業に手を挙げたねらい・目的

現在のSambaサーバーとWindowsMeの組み合わせで移動プロファイル環境に加えて、Linuxを導入してマルチプラットフォーム化したい

自力導入をめざしていたが困った時のサポートがほしい

他校との情報交換の中から学校に必要なシステムを考えていきたい。

実践した内容

Windows, Linuxのデュアルブート化

- Samba-WindowsMeでドメインログオン・移動プロファイル(2000年)
- Windows上でLinuxと両方の版のあるアプリを導入。OpenOffice.org, Firefox, Thunderbird, Java, Gimpなど
- Linux導入の準備として認証にLDAPを導入(2005年)
- 器機更新に合わせてDebianとのデュアルブート化を計画…時間切れでWindowsMeだけに(2006年)
- OSPプロジェクト参加(2007年9月)
- Debian(lenny)を追加導入してデュアルブート化(2007年12月)
ログイン時にpam-mountでサーバーのユーザーホームをマウントし、Linuxでも移動プロファイル環境に。

アプリを両方のOSで使えるOSSに統一

- OSSアプリケーションについてはWindowsの時代から共通のOSSを使用しているので特に言うべきことがないが問題なく使用できている。同じ所をマウントするのでどちらのOSでログインしても作業の続きができるようになった。
- Thunderbirdのメールボックスについても両OSから同じものを使用して共用ができている。
- したがってOSが替わることで変化したのは、ファイルマネージャ、漢字変換、エディタ、フォントである。

使用したOSS(サーバーを除く)

- OOo Calc, Draw, Impress (情報A)
- Gimp : レイヤーを使用した描画、写真加工 (情報A)
- Firefox : 教材提示、ウェブページ製作 (文法チェックができる) (情報A)
- Thunderbird : メールの設定、校内でのメール実習 (情報A)
- Java : プログラミング実習 (選択情報)
- bash : コマンド操作とシェルスクリプト (選択情報)

OSP事業に参加した成果

遅れていたデュアルブート化を完了することができた。

長期休みを待たずに学期中に移行する強制力になった。

セキュリティ上問題のあるnfsに代わり、pam-mountを使った。

OSP事業に参加した感想

OSをOSSに移行するとプリンタやスキャナなどのドライバが手に入らない場合があり、またフォントの種類が少ないという不満も聞く。OSは商用のものでアプリだけOSSにするのならばこれらの問題は回避できるのでそのような選択も順当かと思うが、そこをあえてOSから全部という思い切った試みに踏み切ったことに拍手を送りたい。

将来展望

起動時にハードウェアを認識するknoppixの仕組みは、ハードウェアが異なるPCが混在する環境でのメンテナンスの手間を大きく省く。予算の制約や故障により混在環境になってしまうことを考え研究していきたい。

学校ではどのコンピュータを使用しても同じ環境で作業を続けられるようにすることが望ましい。これを実現するためにUSBメモリなどを利用して生徒がOSや個人の設定、作成データなどをすべて持ち歩くというモデルも非常にわかりやすく魅力的であるが、これらのデータをサーバーに保管して持ち歩く必要をなくするのもメリットがある。目的に合わせて選択できるように多様性を確保していきたい。

